



チワラスボはウナギ型の体形をしていますが、れっきとしたハゼの仲間です。腹鰭は吸盤になっています。



眼はきわめて退化的で、砂泥質の底質に潜る習性をよく反映しています。口はほぼ垂直に近く、下顎が前方に突出します。顎には鋭い歯があり、ゴカイなどの多毛類や小型の甲殻類を捕らえ、餌とします。しかしながら、繁殖期や成長の様子などはまだ十分に解明されていません。

本種は、ヒゲ状突起が下顎にしかないことで他のワラスボ型魚類と区別できます。高知県内では、浦戸湾、甲殿川、仁淀川、桜川、蛸瀬川、四万十川に生息するとされていますが、私たちは本年、大方町の加持川での生息を確認しました。しかしながら、安定した生息環境は四万十川のみであり、他の地域の個体群はいずれも危機的とされています。

2004年10月6日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。